2019－8－4（日） 於:『風画』→コムナーレ9Fさいたま市市民活動サポートセンター

参加各位

「**馬場小室山遺跡研究会**」世話人

「馬場小室山遺跡フォーラム」第 98 回ワークショップ

【 復興の原動力！ パブリック・アーケオロジー2019 】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「*かかわる*」から、「山田湾文化」の「*つながる*」パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾文化」の比較考古学への新展開—地域文化と広域連動メカニズムの解明—＞

知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界からの証拠に基づく知的解放を目指して活動します！

新展開1 (ムロ 16) までは以前のレジュメ参照	「**ムロさま**」の「**限界領域**」打破 （墓場の公共性にみる墓式と葬式の真相解明）	馬場小室山遺跡「第 51 号土壙」から展望する**縄文時代の葬墓式**と「土器社会論」ー「ムロさま」の「**累積型改新土坑墓**」と「**積葬墓**」から探る「**追埋設型土器棺集積墓**」への途ー **(ムロ17 予告)「亀ヶ岡文化」の北縁地域における「逆位大形壷」の風習【『利根川』41】**
新展開2 (オム9) までは以前のレジュメ参照	「**オムちゃん**」と「**ムロさま**」との「**限界知識**」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ **(オム 10 予告)千歳市ママチ遺跡の土面** **(オム 11 予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ**
新展開3 (シオ 1) ～ (シオ5) は以前のレジュメ参照	「**シオ**（塩）**もん**」の「**限界経験**」打破 縄文時代の製塩土器は「**採鹹・せんごう土器**」が真相！ 固形塩の物流ではなく、「**大形魚塩蔵品**」・「**汽水系塩（海水）煮**」に留まらず、**濃縮海水を内陸で希釈する「淡水魚（含む特産ウナギ）塩（海水）煮**」の普及か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、**爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着** **(シオ6）三陸北部における「製塩土器」の年代と系統（1）久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱** **(シオ7）六十軒遺跡の「製塩土器」二者（古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列）の意義【『利根川』40】** **(シオ8）古鬼怒湾で後期中葉から大量出土の粗製土器とウナギのブツ切り「塩（海水）煮」／「採鹹・せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ「塩（海水）煮」に注目！** **(シオ9）シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋** **(シオ 10）「微小貝類から想定される「草灰」製塩の可能性」？？アマモは「藻灰」×「草灰」○** **(シオ 11）「製塩土器」に観る「*大宮台地系列*」（馬場小室山）、「*武蔵野台地系列*」（正網・下布田）** **(シオ 12）古鬼怒湾の「*魚食・塩（海水）煮文化*」と加曾利貝塚の「*貝食・塩（海水）煮文化*」** **(シオ 13）「補注式灰煮沸法」は現代人のおとぎ話か？ 「製塩土器」の膨大な個体数と爆発的普及に見合う「アマモ灰」製作は煮沸によるせんごう過程と二度手間で非効率！** **(シオ 14 予告)広畑貝塚の「製塩土器」に付着した微小巻貝の観察**
新展開4	「**ツナがる**」の「**限界思考**」打破 **馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾まるごとスクール」の「山田湾文化」の考古データをエビデンスとし、「ツナがる」をキーワードに新たな比較考古学の推進**	「見沼文化」は「撚糸文土器」に地域文化が確立し、「条痕文土器」の地点貝塚形成は列島における「縄文海進」による海洋資源開発の顕在化にある。「見沼文化」と「山田湾文化」がいつ・どのように「ツナがる」か、縦横に現象を見出し、背景にあるメカニズムの解明に挑戦しよう！ **(ツナ1）土器の施文原体として九州から北海道まで「ツナがる」貝殻を使用する風習とは？** **(ツナ2）仮称「八雲式」の制定と大柄鋸歯文の来歴と組成は前後にどう「ツナがる」か？** **(ツナ3）縄文時代早期とは「自然環境としての日本列島を形成し、海洋適応としての貝塚形成の風習が九州から北海道まで「ツナがる」時代」と概念化** **(ツナ4）「見沼文化」に集中する「撚糸文土器」とその直後に観られる「押型文土器」の北漸** **(ツナ5）「縄文早期／条痕文海進」と「縄文前期／羽状縄文再海進」、そして「繊維土器」の広域展開** **(ツナ6）「大洞A‘式」直後の三陸地方には仮称「続A’式」が展開！** **(ツナ7予告)「大洞A‘式」直後の下北方面には仮称「八幡堂式」が展開！** **(ツナ8予告)「砂沢式」に並行する北上川流域の土器群と山田湾**

★図表や写真は著作物からの転載です。無断使用はご遠慮下さい！

1.【地域間の比較考古学とパブリック・アーケオロジーの底力】 ： 自然の恵みと基層文化を比較し相対化しましょう！

<< パブリック・アーケオロジーから企図する縄文文化と弥生社会の比較考古学2019 >>

・馬場小室山遺跡を形成する「**縄文文化とは何か？**」、そして馬場小室山遺跡の次に形成される環濠集落の「**弥生社会とは如何にあったのか？**」というパブリック・アーケオロジーからの必然の問いに対し、**権威や通説には捉われない坪井正五郎の精神**に則り、**検証可能なエビデンスから立ち上げる接近法に学ぶ構え**を徹底します。

・これには**「山田湾まるごとスクール」で進めてきたパブリック・アーケオロジーの実践**が有効に思えます。未経験のフィールドに立ち、自然が破壊された都会での虚像や常識を払拭し、**未経験の環境や自然に寄り添う生活を学ぶ**ことにより改めて地域研究の本質へと接近するならば、これまでの**考古データの解釈を抜本的に見直す**契機となり、また高次のトレーニングともなり、**権威や通説とは異なる新たな視点の獲得と展開**が期待できます。

・**列島は「ツナがる」！ をキーワードに、**馬場小室山遺跡の**「見沼文化」と「山田湾文化」の考古データをエビデンスとして新たな比較考古学**を立ち上げ、**「交流」をテーマとした研究展開**を図りたいと思います。

1－1.【動物遺存体から観た列島のヒトー動物関係誌断想】 ： 縄文時代の自然崇拝から歴史時代までを通史として

・**鴨志田隼司さんが関心を抱いているテーマの一つ**です。登山の仲間向けにお話しされた内容を紹介して頂きます。年代的にも内容は多岐に亘ると思います。ここでは縄文時代前期「関山式」に共通する考古データを示し、「**送り場**」の実態を議論したいと思います。因みに「関山式」等前期の住居址は拡張ではなく、縮小再建するのが基本です。

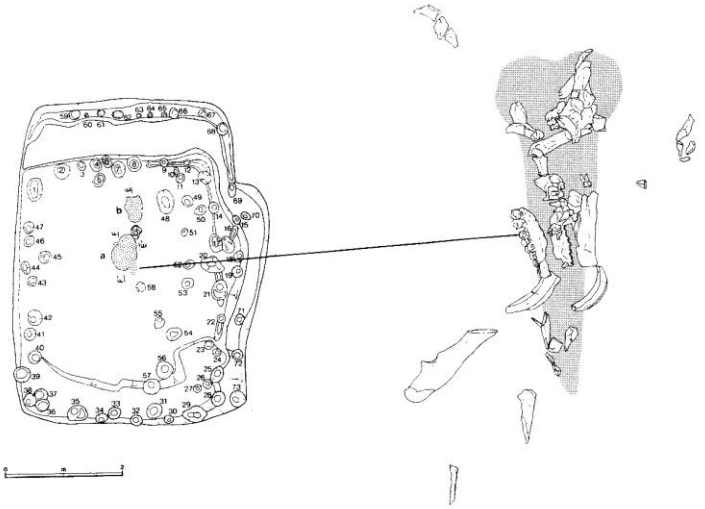


図27　側ヶ谷戸貝塚4号住居址（関山式期）イノシシ頭骨出土状況

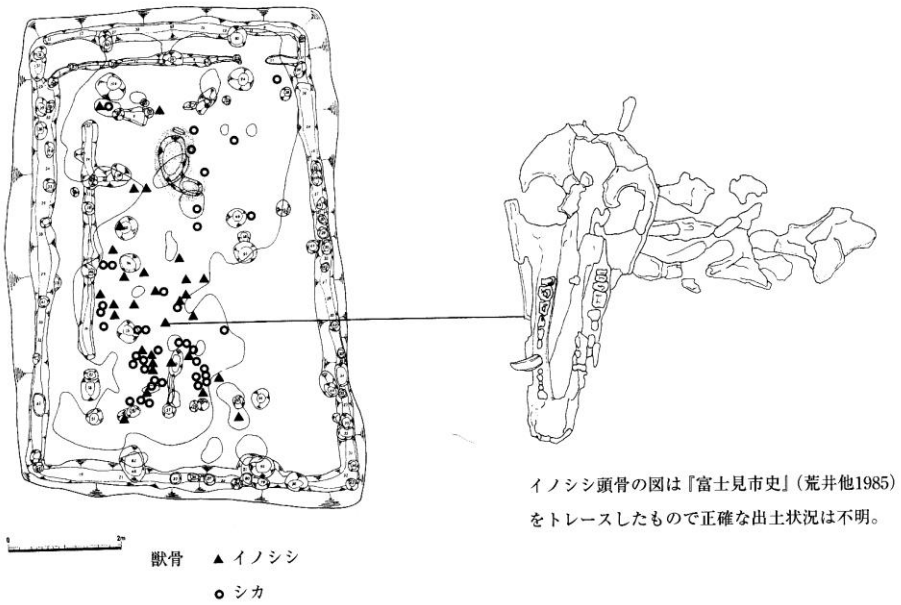


図28　打越遺跡173号住居址（関山式期）獣骨分布とイノシシ頭骨出土位置
（獣骨出土位置は金子他1985による）

【 小川 岳人（2001）『縄文時代の生業と集落―古奥東京湾沿岸の社会―』、（株）ミュゼ 】

1－2.【「大洞A‘式」の範囲】 ： 昭和30年代後半は大洞貝塚A‘地点の土器群に悩んだ時代ですが、今は！

（1）大船渡湾の大洞貝塚A‘地点の土器群 ： 山内清男の基準資料を含む全体像について

・「大洞A‘（古）式」【1】→「大洞A’（中）式」【＋】→「大洞A‘（新）式」【4】→「**続大洞A’式**」（「**続A‘式**」）【3】
尚、【4】の変形工字文（「**三角連繋文**」）を圧縮・並行線にすると【2】の「**段違い交互π字連繋文**」になります！

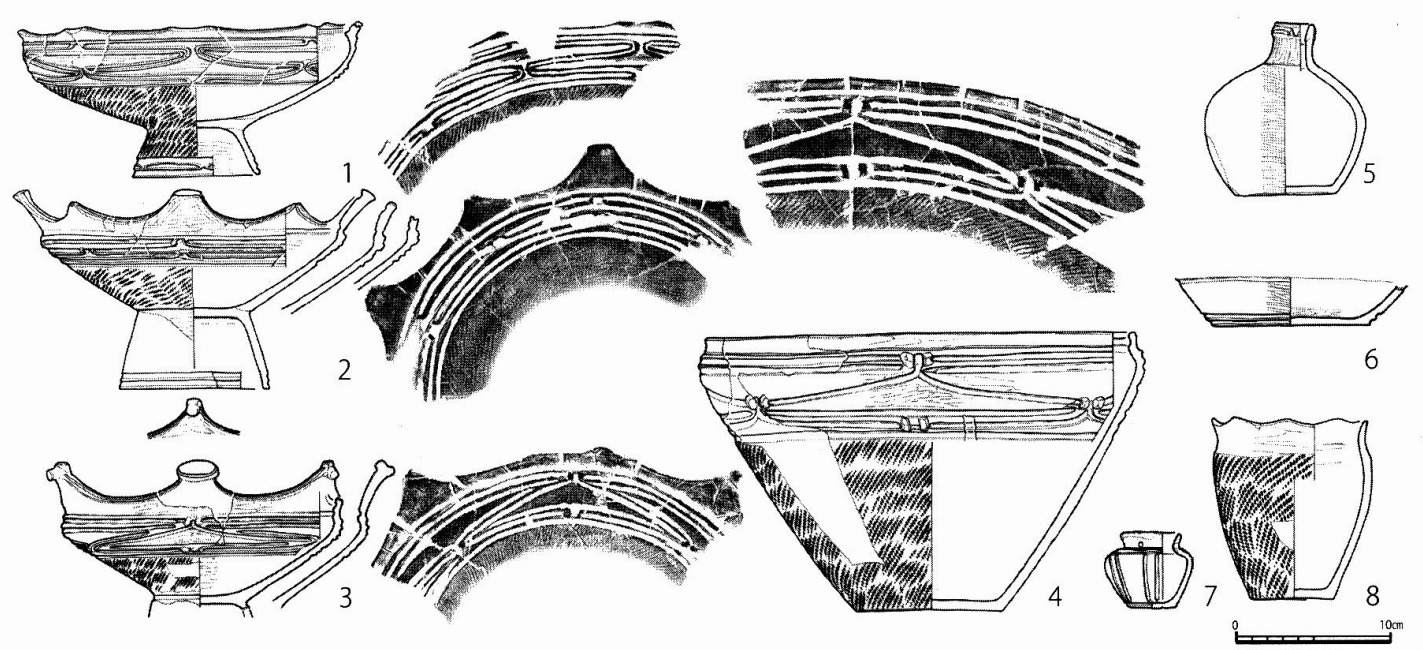
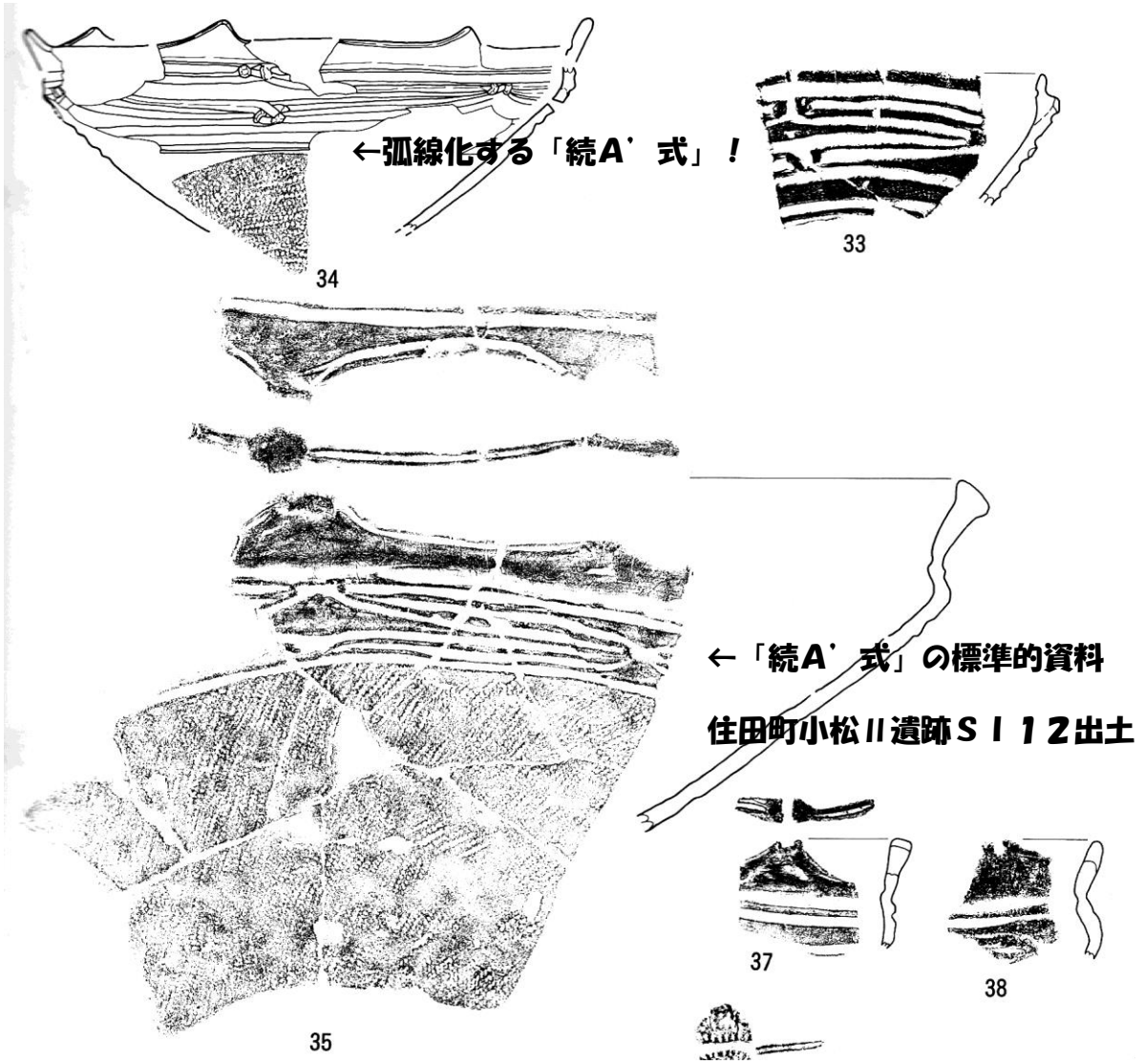
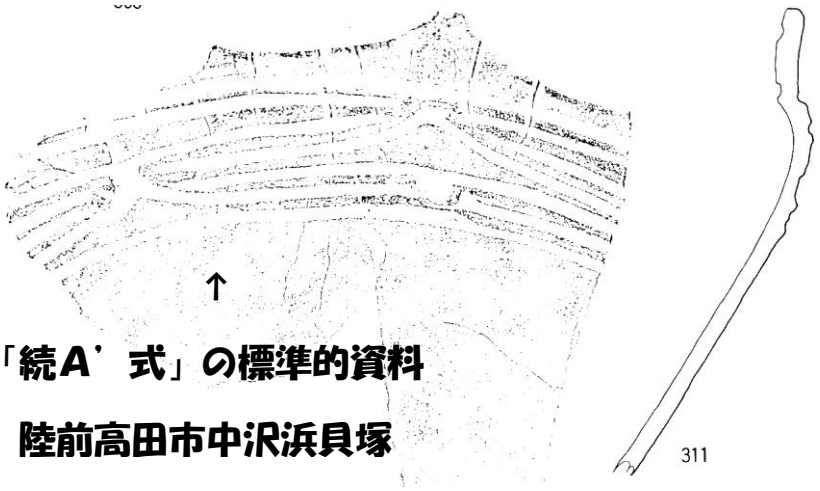


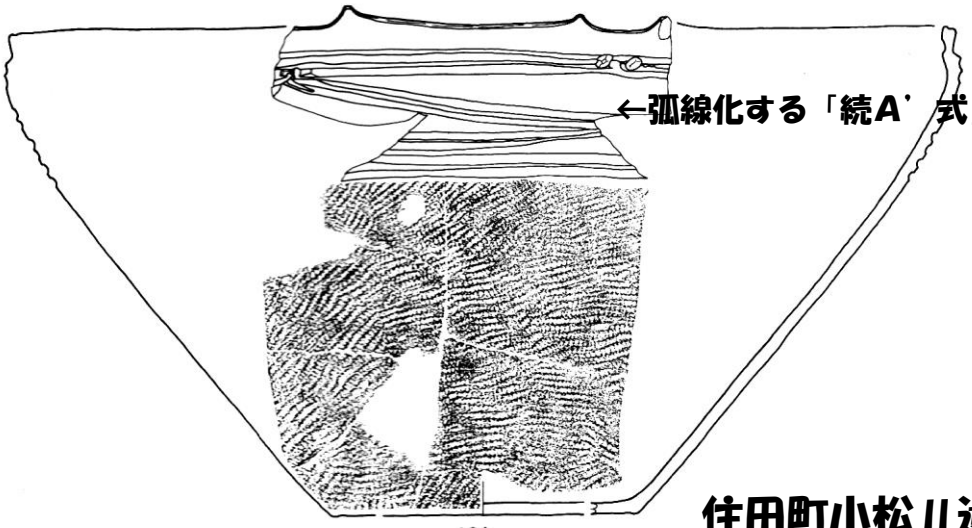
図２　岩手県大船渡市大洞貝塚 A' 地点出土土器 (註 1 大坂 2012 より作成　東京大学総合研究博物館所蔵)

（2）「続大洞A’式」（「続A‘式」）【3】の扱い ： 陸前を中心に新たな「土器型式」として展開します！

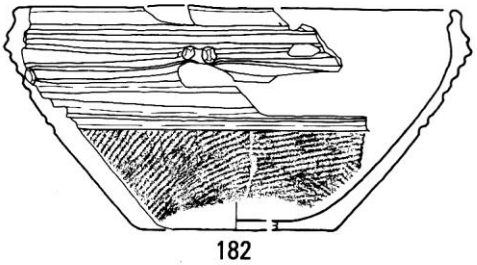
・「続A‘式」を構成する【3】と同じ文様帯（「**交互三角連繋文**」）は、大洞貝塚周辺では存在が一般的です。

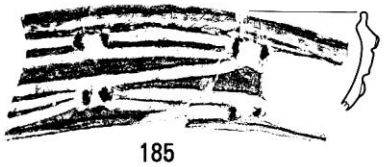


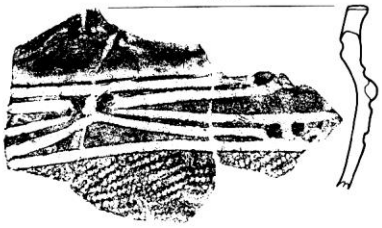


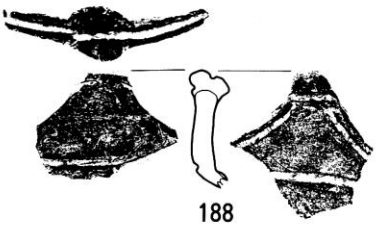


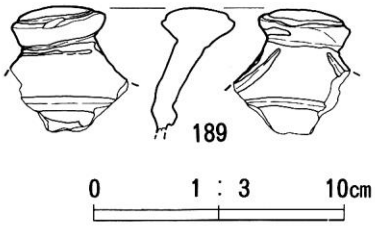
住田町小松Ⅱ遺跡



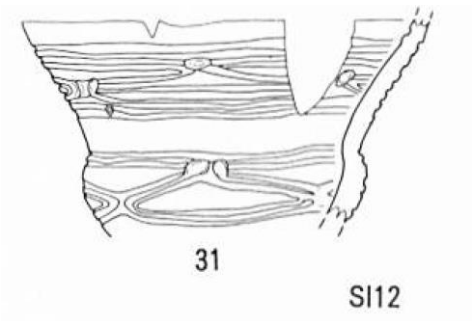




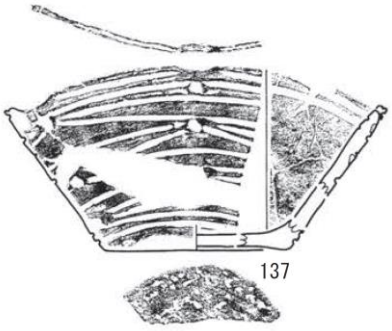




★小松Ⅱ遺跡SI12出土土器



★宮古市千鶏Ⅳ遺跡の「砂沢式」系文様帯模倣土器



1－3.【「砂沢式」の位置付け】： 齋藤瑞穂氏が議論する「砂沢式」と関連する前後の土器群とは！

【 齋藤瑞穂 （2018）「東北「遠賀川系土器」の拡散と亀ヶ岡文化の解体」『季刊 考古学』別冊 25、雄山閣 】

・【金田一川】は「大洞A‘（新）式」から変遷するが、大きく二つの工程で変化が見られます。＜第1工程＞「**充填弧線文**」の追加、 ＜第2工程＞主文様帯下に「**横帯区画無文帯**」の貫入、という二つの大きな変化が顕著です。

・やがて「**横帯区画無文帯**」自体が主文様帯になってしまうのが千鶏Ⅳ遺跡の大きな特徴です。また、「**横帯区画無文帯**」で作出された器面装飾部に対しても「変形工字文」を挿入するならば、【剣吉荒町】や【是川中居】に見られる二段（菱形になるのは段違い）に展開する**「砂沢式」系文様帯**が生成されます。

・しかし、時がたつと【田向冷水】に観るように三陸方面の系統が進出します。こうして八戸は「津軽」－「下北」－三陸」の三方向から影響を受け、「土器型式」のマージナルになっていることが良く分かります。時々にどの方面の「土器型式」進出が強いのか、「細別」して初めて分かるようになります。

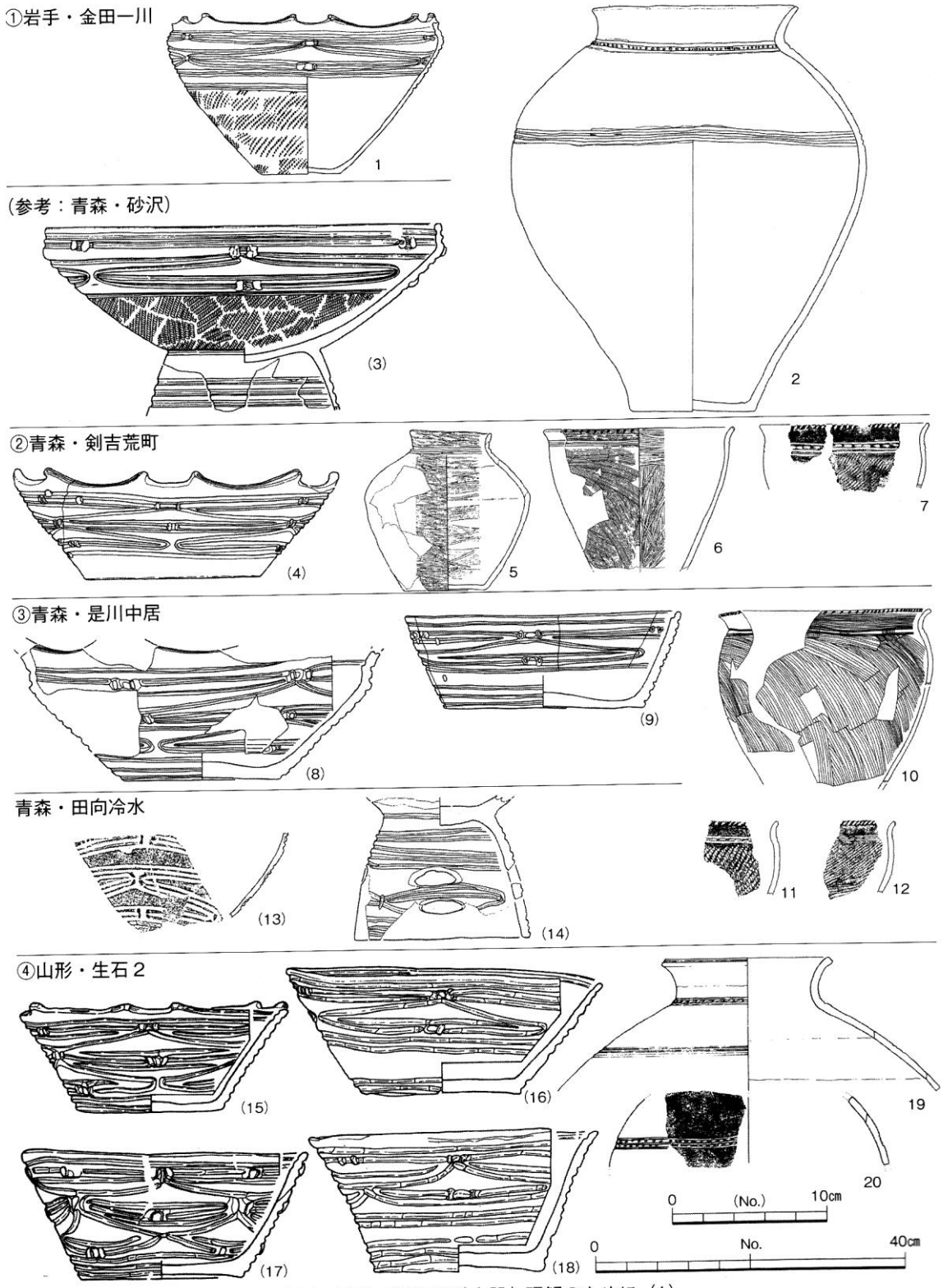


図１ 東北「遠賀川系土器」理解のために（1）

・山形県では「砂沢式」の影響を受けた【生石2】が展開しますが、その前には「大洞A‘式」よりも新しい【作野】の弧線化した「変形工字文」が展開します。【作野】の文様帯は【金田一川】と異なり、寧ろ「続A’式」に類似しています。ということは「**変形工字弧線文**」は**三陸から仙台平野を介して山形県まで影響**を与えたことになります。
・仙台平野では「続A‘式」を経、「細別」は措くとして「**青木畑式**」が続き、更に「**山王Ⅲ層式**」へと変遷するようです。
・福島県の浜通りでは「**変形工字弧線文**」が「**藤堂塚S式**」として認識されています。最古の形態ではなさそうで、やや新しい印象がありますので、ここではその古さを課題とします。
・「みちのく遠賀川系土器」とのジャーゴンで示される土器には大形壷と甕があります。大形壷は「再葬壷棺墓」の棺体として利用されることに顕著な特徴があります。「遠賀川系甕」が影響を及ぼす地域は太平洋岸では東海地方まで、日本海側でも北陸周辺だと思われます、では青森県に展開する「みちのく遠賀川系甕」の正体は何でしょうか？刷毛目調整は「大洞C2式」に定着していますので、その変遷と理解するのが無理のない考え方ではないでしょうか？齋藤瑞穂さんは大形壷を中心に議論しますが、実は【根小屋26】の鉢も重要で、北海道系鉢形態が彷彿とします。

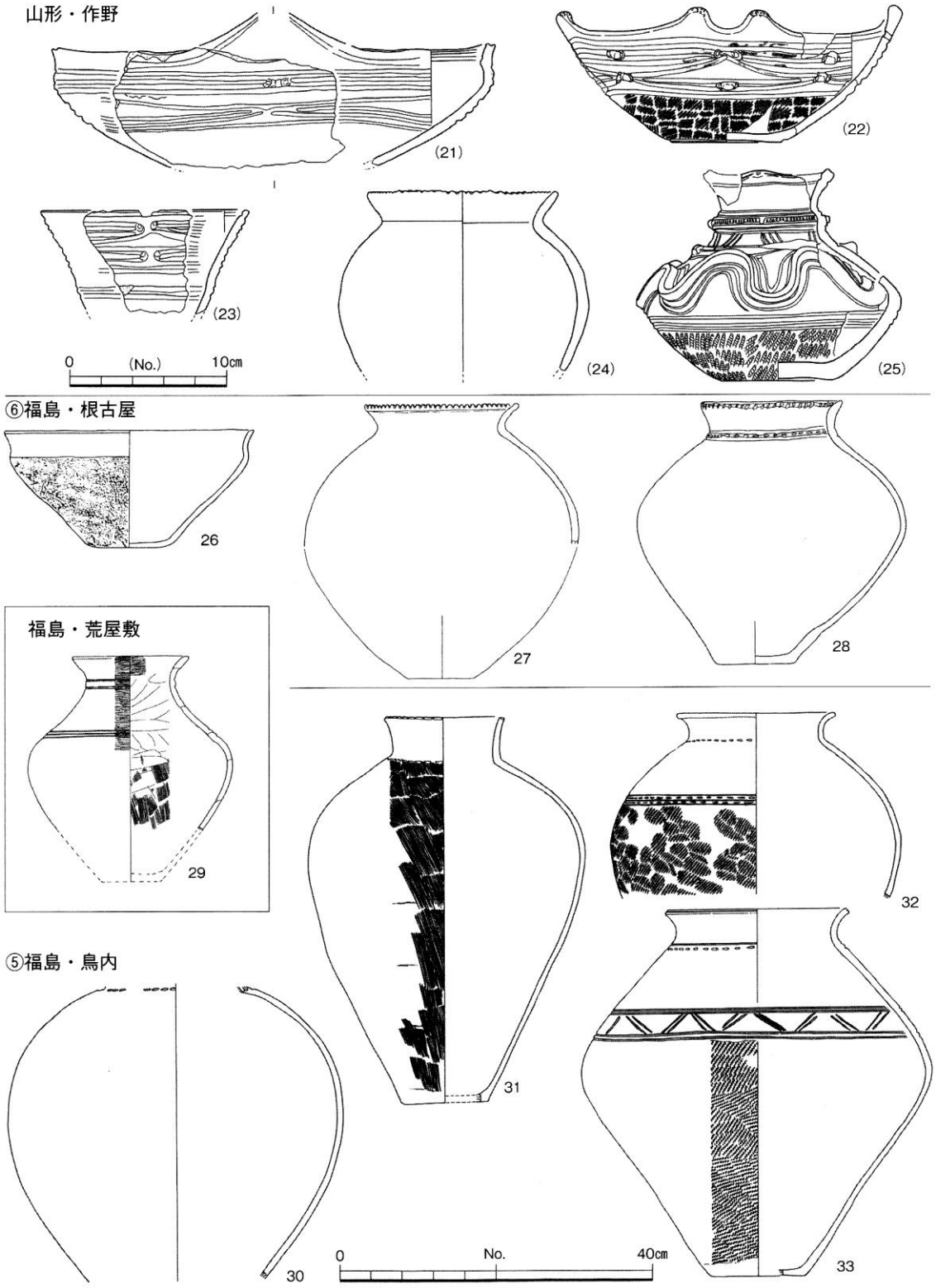


図２　東北「遠賀川系土器」理解のために（2）

1－4.【第7回「山田湾まるごとスクール」の実施】： 開校日は9／6（金）～9／8（日）です！

（1）レクチャーの準備 ： テーマ名は仮題です！

山田史談会 ： **川端弘行コレクションの活用**を目的として次の3件のレクチャーを予定します。

・「**繊維土器**」（齋藤弘道さん）
・「**弥生時代と山田湾**」（齋藤瑞穂さん）、
・「**遮光器土偶**」（安井健一さん）

北浜老人クラブ ： **食生活の歴史**を語り合います！

・「弥生時代と山田湾（前振りのため簡潔に！）」（齋藤瑞穂さん）
・「**山田町の郷土食**」（五十嵐聡江さん） ★大いに議論して頂きます！

【 佐島 直三郎編 （1992）『大浦民俗調査記録集 Ⅵ 大浦の食べもの』、山田町教育委員会 】

大浦地区交流会 ： **漁村の食生活**を学びます！

・「山田町の郷土食」（五十嵐聡江さん）

（2）山田湾の弥生時代を考える！ ： 弥生時代前期灌漑農業社会は存在するか？

・今回のテーマ「弥生時代と山田湾」は、次回（第8回）に巡検予定の宮古市**千鶏Ⅳ遺跡**を理解するための準備作業です。**山田外湾**（山田湾とは内湾部を差し、外湾部は山田外湾として区別）に立地する千鶏Ⅳ遺跡の重要性を齋藤瑞穂さんが発見し、年代的変遷から見ても長期に亘り集落を形成しており、明らかに山田湾と山田外湾全体における拠点集落であることは否めません。そこで次回には千鶏Ⅳ遺跡で弥生時代の人々は何をしていたのか、その生業の復元に挑戦します。

・水田を探すのは至難の業ですので、先ずは北奥最古の水田と喧伝される津軽の砂沢遺跡や垂柳遺跡の時期に比定される籾痕について既存研究を整理します。その時期の籾痕について、「**弥生水田**」の籾痕か、あるいは「**縄文稲作**」**の伝統**か、はたまた山内清男がモデル化した「**続縄文経済**」により搬入された籾痕か、を判別します。農業社会であれば、水田が検出できなくとも農業用具（石器或いは木器）は装備されますので、その有無によりある程度は絞り込みが出来そうです。

岩手県では中期後半になると石庖丁の出土が知られますが、仙台平野で灌漑農業が開始されて間もなく、北上川流域を北漸するようです。

砂沢遺跡を含め、弥生時代前期から中期前葉にかけては石庖丁の出土は未明です。とすると、該時期の籾痕はどうして土器に付着したのでしょうか？

・山内清男が明らかにしたように「弥生水田」集落の土器づくりでは身近な環境に籾痕があり、それらは偶然に底部や土器の表面に付着します。「縄文稲作」でも籾痕の付着場所は同様でしょう。高瀬克則氏の調査によれば、北奥では未だ「縄文稲作」の証拠はありませんので、次に検討すべき「続縄文経済」が展開する背景となります。

即ち、**砂沢遺跡や垂柳遺跡を「弥生水田」集落の自家消費用と考えるのではなく、縄文時代の流通網に組み込まれて翡翠や各種玉等と同様の交流品となる可能性**が高いです。要するに**日本海側の特産品としての籾痕**という位置付けです。

・弥生時代中期中葉までは温暖化が進み、仙台平野を中心として石庖丁に代表される水田ネットワークが想定されると共に、大津波で一時中断することにもなりますが、それまでには山内清男の指摘通り、土器に磨消縄文が定着し、東部弥生式文化圏が形成されます。そこで**水田ネットワーク以前の社会**として**弥生時代前期～中期前葉の籾痕ネットワーク**を押さえておきたいというのが、今回のパブリック・アーケオロジーのテーマです。

・東日本における**環濠集落以前の農耕社会は米を囲い込むのではなく、特産品としてオープンに流通させる「続縄文経済」**に準拠した社会構造の可能性が考えられます。

（3）川端弘行先生の徒然

「1．ヘッチョロ石の話」／「2．日和石の話」

2.【その他情報交換など】： 自由な意見・情報交換とワイン・アーケオロジー

2－1．ワークショップ関連予定

・9／6（金）～9／8（日） ： 第7回「山田湾まるごとスクール」
・9／28（土） ： 「縄文時代高井東式土器とその文化」（於：桶川市べに花ふるさと館）
・12／1（日） ： 飯塚邦明ジャズピアノコンサートNo．13

★第99回ワークショップ後、希望者で文化センターへ

2－2．その他

以 上